

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年9月28日(月)～平成27年10月4日(日)〔第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.82人と前週(1.94人)からやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は3.12人と前週(3.09人)からほぼ横ばいですが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

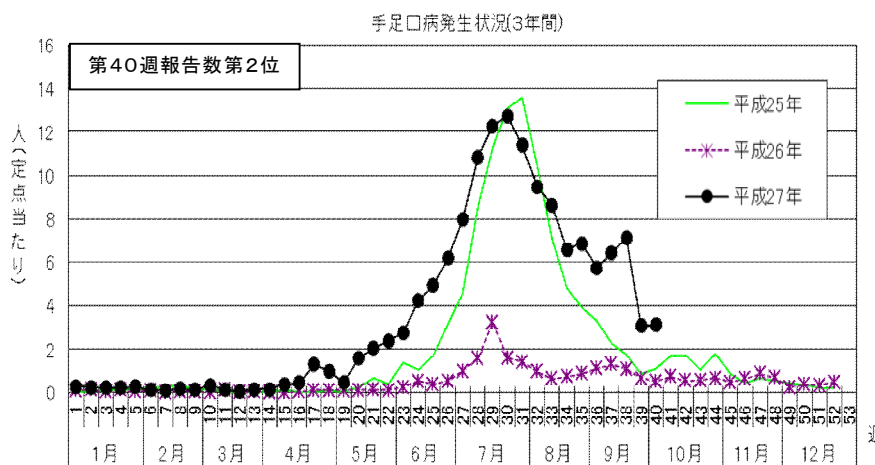
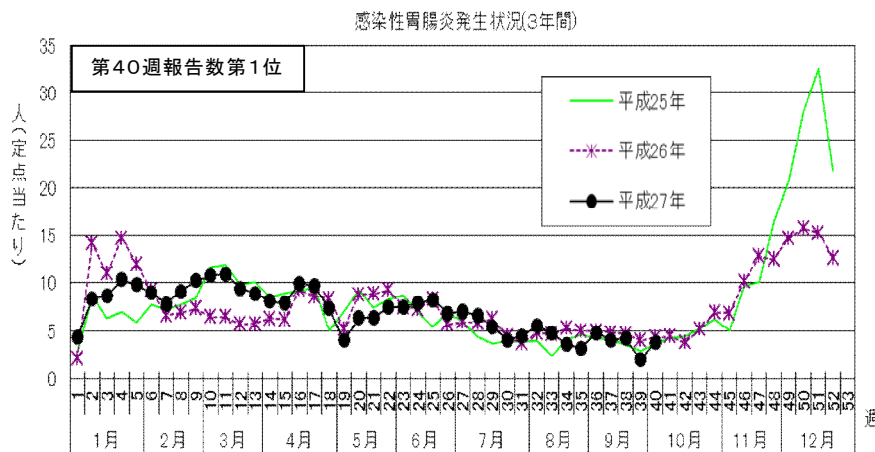
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.36人と前週(1.21人)からやや増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



気をつけたい感染症～マイコプラズマ肺炎～

マイコプラズマ肺炎は、1年を通じてみられ、冬にやや増加する呼吸器感染症です。例年、報告される患者の約80%は14歳以下ですが、成人の報告もみられます。

今年は全国的に、8月以降の患者報告数が増加傾向にあり、過去10年間の比較でも、平成23年及び平成24年に次ぐ勢いです。川崎市でも数は少ないものの、増加がみられます。



マイコプラズマ肺炎の特徴は？

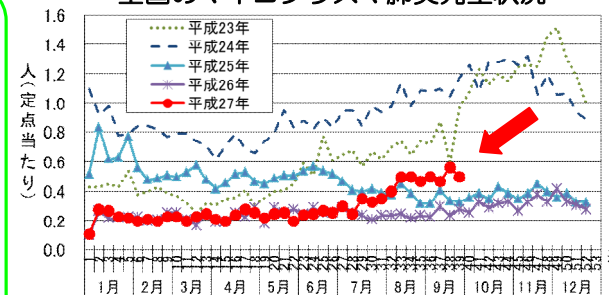
感染経路：飛沫感染・接触感染

潜伏期間：2～3週間程度

症状：発熱や全身倦怠感(だるさ)、頭痛、咳などの症状がみられます。咳は解熱後も3～4週間程続くのが特徴です。

気をつけたいこと：多くは軽い症状だけで自然に治りますが、一部の人は重症肺炎となることもあります。合併症として、中耳炎、無菌性髄膜炎の他、心筋炎、関節炎など多彩なものがあります。

全国のマイコプラズマ肺炎発生状況



<予防のポイント>

感染経路はかぜやインフルエンザと同じです。手洗いを徹底するとともに、咳がある場合には、マスクを着用するなど咳エチケットを守りましょう。

